

様式1 平成25年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	東白川村	学校名	東白川村立東白川中学校			
校長名	林 茂富	対象学年	第1学年	人数	21名	
活動名	ふるさと学習（緑化少年団）		時間数	52時間	継続年数	44年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物） [白川源流調査] ② 歴史（史跡・先人） [入団式、木曾ヒノキ備林見学] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [] ④ 地場産業（その他） [植林活動、林業体験学習] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [ふるさと学習発表会] ⑥ その他（ ） []					
複数年継続するための工夫改善	○村の中心産業である林業との関連付けを図りながら、必然性のある課題設定を行うとともに、過去の先輩の学びやデータとの関連付け、経年変化をもとに学びを深めるよう学習活動の工夫を図った。					

1 ねらい

◎本校では第1学年の全生徒が「緑化少年団」に入団する。緑化少年団は次代を担う子どもたちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした自主的な団体である。生徒達は、昭和45年から脈々と受け継がれている東白川緑化少年団の一員としての自覚のもと、地域の美しい森林を守り、次の世代へつなげていく取り組みを行う。

2 活動の概要

・生徒は役場や森林組合職員等の指導のもと、村内国有林の植林活動、白川源流調査、林業体験学習、備林調査等を行いながら、年間を通して緑化活動の重要性や環境保全の意義を学ぶ。

(1) 「緑化少年団」入団式、植林活動(H25.4.17)

・村内の国有林にて「緑化少年団」入団式を行った。その後、生徒は村役場や森林組合職員の指導をいただきながら、約3時間をかけて植林活動を行った。急斜面での作業に仲間と共に汗しながら、約700本のヒノキの苗木を植える活動を通して、森林を育むために多くの苦労があることを学んだ。

(2) 白川源流調査(H25.6.6)

・加子母村乙女溪谷にて、森林の浄化作用によって育まれる白川源流の水質調査を実施した。白川の中下流域5カ所の水質と比較しながら、水質保全の重要性を学んだ。調査に先立ってサントリーホールディングス・水化学研究所の職員より講話をいただき、硬水と軟水の違い、地形や樹木と水質との関連について学び、調査に生かすことができた。

(3) 木曾ヒノキ備林見学(H25.9.4)

・中津川市加子母の国有林地内で、木曾ヒノキ備林の見学を行った。東濃森林管理署の職員から、この地のヒノキが伊勢神宮の式年遷宮に使われていることや、「三ッ緒伐り」など伐採の方法などについて指導をいただいた。

(4) 林業体験学習(H25.9.12-13)

・村内国有林にて、林業体験学習を実施した。役場職員から間伐や枝打ちをする目的について指導いただいた後、額に汗しながら仲間と協力しながら間伐や枝打ち作業を行った。

(5) ふるさと学習発表会(H26.1.22 予定)

・この後、生徒達はこれまでの学習の成果をまとめ、「ふるさと学習発表会」において、地域や保護者、学習を支えていただいた関係者の皆さんをお招きして発表する予定である。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

・緑化少年団での学びは、資源回収や生徒会活動で実施しているペットボトルキャップ回収などのリサイクル活動に直結していることが多く、学びの共有や連携につながっている。とりわけ、リサイクルに対する村民の意識は高く、全国の自体の中で全国8位のリサイクル率に表れている。また、水質調査等の結果は林務や環境に関わる行政部署にも生かされている。

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

・生徒たちは、体験を通じた学びを通して森林や水の大切さやそれを守るための先人の苦労を汗や肌で感じ取っている。1年生での学びは他の教科・領域での学習や、2年生の職場体験学習、3年生の生き方学習にも生かされている。また、資源やものを大切に作る行動習慣やふるさとを愛する豊かな心の形成につながっている。